

平成27年鋳工業の概況

1 一般概況

平成27年の本県鋳工業生産指数（原指数）は年平均90.4、前年比△3.7%、出荷指数（原指数）は年平均94.3、前年比△6.7%、在庫指数（原指数）は年末値111.5、前年末比△11.3%となりました。

表1 年次別鋳工業指数の推移(原指数 平成22年=100)

区分/年次		H22	H23	H24	H25	H26	H27		
長野県	生産	指数	100.0	93.9	91.2	90.6	93.9	90.4	
		前年比(%)	15.6	△6.1	△2.9	△0.7	3.6	△3.7	
	出荷	指数	100.0	98.4	98.1	96.8	101.1	94.3	
		前年比(%)	21.1	△1.6	△0.3	△1.3	4.4	△6.7	
	在庫(末)	指数	102.9	108.4	114.7	108.5	125.7	111.5	
		前年比(%)	7.3	5.3	5.8	△5.4	15.9	△11.3	
	在庫(平均)	指数	100.0	108.6	123.4	107.4	116.1	117.8	
		前年比(%)	△5.7	8.6	13.6	△13.0	8.1	1.5	
	全国	生産	指数	100.0	97.2	97.8	97.0	99.0	97.8
			前年比(%)	15.6	△2.8	0.6	△0.8	2.1	△1.2
		出荷	指数	100.0	96.3	97.5	96.9	98.2	96.9
			前年比(%)	15.5	△3.7	1.2	△0.6	1.3	△1.3
在庫(末)		指数	102.9	105.0	110.5	105.7	112.3	112.3	
		前年比(%)	2.4	2.0	5.2	△4.3	6.2	0.0	
在庫(平均)		指数	100.0	104.3	110.4	107.4	109.5	113.0	
		前年比(%)	△5.7	4.3	5.8	△2.7	2.0	3.2	

本県鉱工業活動を四半期別（季節調整済指数）でみると、平成24年10～12月期（第Ⅳ四半期）に88.8という低い水準となって以降上昇傾向となり、平成26年4～6月期（第Ⅱ四半期）には、95を超える水準となりましたが、以降は再び低下傾向に転じ、平成27年10～12月期（第Ⅳ四半期）まで6期連続で低下しています。出荷は、平成24年10～12月期（第Ⅳ四半期）に93.6まで低下して以降、5期連続で上昇が続き、平成26年1～3月期（第Ⅰ四半期）には105.1という高い水準となりましたが、その後は平成27年10～12月期（第Ⅳ四半期）まで7期連続で低下しています。在庫は、平成25年1月～3月期（第Ⅰ四半期）に向けて低下して以降、上昇傾向となり、平成26年10月～12月（第Ⅳ四半期）には、125.1という高い水準となりました。以降は低下・上昇を繰り返しています。

長野県・全国鉱工業指数の推移(平成22年=100)

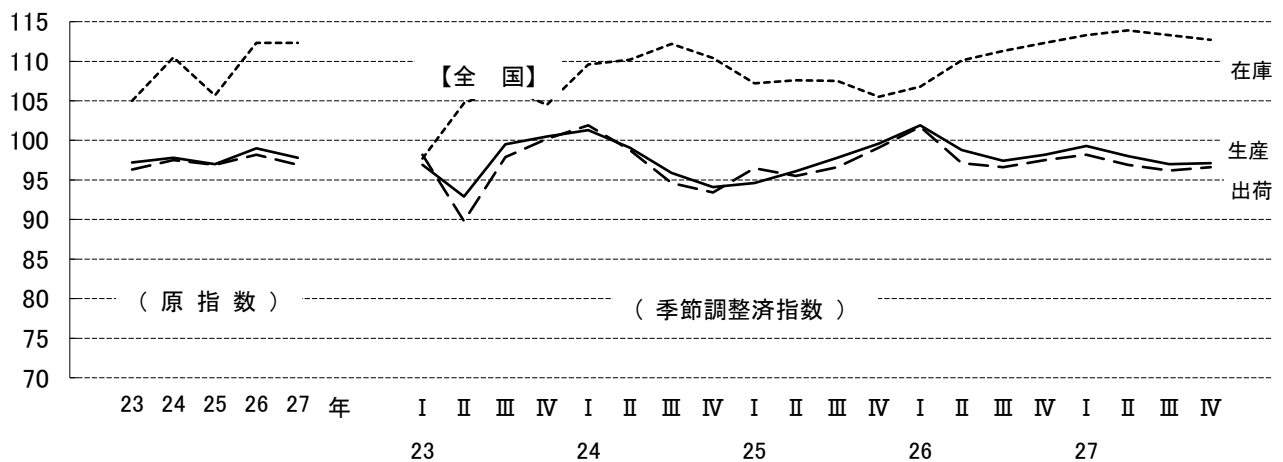
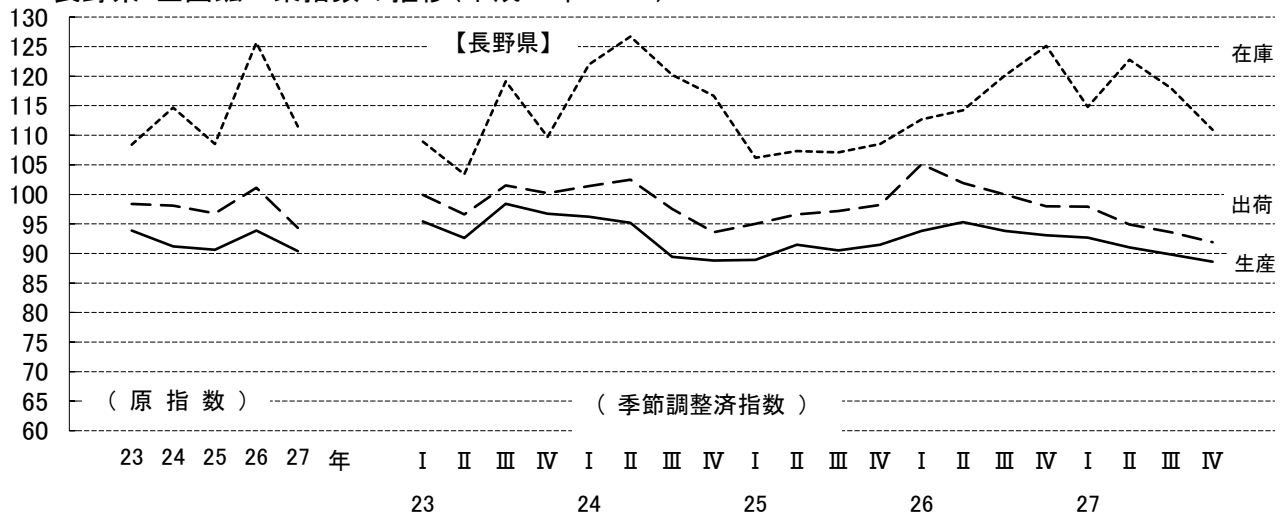


表2 平成26年・四半期別鉱工業指数の推移（平成22年=100）

区分/年次(期)		平成26年				平成27年				
		第Ⅰ	第Ⅱ	第Ⅲ	第Ⅳ	第Ⅰ	第Ⅱ	第Ⅲ	第Ⅳ	
長野県	生産	季節調整済指数	93.8	95.3	93.8	93.1	92.7	91.0	89.8	88.6
		前期比(%)	2.5	1.6	△ 1.6	△ 0.7	△ 0.4	△ 1.8	△ 1.3	△ 1.3
	出荷	季節調整済指数	105.1	101.9	100.0	98.0	97.9	94.9	93.6	91.9
		前期比(%)	7.0	△ 3.0	△ 1.9	△ 2.0	△ 0.1	△ 3.1	△ 1.4	△ 1.8
	在庫	季節調整済指数	112.7	114.2	120.1	125.1	114.8	122.8	118.0	110.9
		前期比(%)	3.9	1.3	5.2	4.2	△ 8.2	7.0	△ 3.9	△ 6.0
全国	生産	季節調整済指数	101.9	98.8	97.4	98.2	99.3	98.0	97.0	97.1
		前期比(%)	2.3	△ 3.0	△ 1.4	0.8	1.1	△ 1.3	△ 1.0	0.1
	出荷	季節調整済指数	101.7	97.1	96.6	97.5	98.2	96.9	96.2	96.6
		前期比(%)	2.6	△ 4.5	△ 0.5	0.9	0.7	△ 1.3	△ 0.7	0.4
	在庫	季節調整済指数	106.8	110.1	111.3	112.3	113.3	113.9	113.3	112.7
		前期比(%)	1.2	3.1	1.1	0.9	0.9	0.5	△ 0.5	△ 0.5

(注)在庫指数は、期末値です。

2 業種別の動き(原指数)

平成27年の本県鉱工業活動を業種別にみると、前年比(原指数)で生産は、電子部品・デバイス工業、食料品工業、輸送機械工業など11業種が低下し△3.7%となりました。出荷は、電子部品・デバイス工業、情報通信機械工業、輸送機械工業など11業種が低下し△6.7%となりました。在庫は、情報通信機械工業、電子部品・デバイス工業、食料品工業など12業種が低下し△11.3%となりました。

上昇、低下の主な業種及び品目は、以下のとおりです。

生産指数

項目	業種数	主な業種	前年比(%)	主な品目
上昇	6	その他工業	12.5	家具工業
		電気機械工業	2.8	電気計測器、静止電気機械
		はん用・生産用・業務用機械工業	1.0	
低下	11	電子部品・デバイス工業	△ 25.0	電子部品、半導体素子
		食料品工業	△ 2.5	味そ・しょう油、飲料
		輸送機械工業	△ 2.5	自動車部品

出荷指数

項目	業種数	主な業種	前年比(%)	主な品目
上昇	6	はん用・生産用・業務用機械工業	2.0	
		その他工業	9.5	家具工業
		電気機械工業	2.6	電気計測器
低下	11	電子部品・デバイス工業	△ 29.8	電子部品、半導体素子
		情報通信機械工業	△ 22.8	電子計算機及び関連装置
		輸送機械工業	△ 2.7	自動車部品

在庫指数

項目	業種数	主な業種	前年比(%)	主な品目
上昇	4	はん用・生産用・業務用機械工業	7.0	
		窯業・土石製品工業	22.2	
		化学工業	6.9	医薬品
低下	12	情報通信機械工業	△ 34.1	
		電子部品・デバイス工業	△ 19.1	
		食料品工業	△ 11.2	飲料、味そ・しょう油

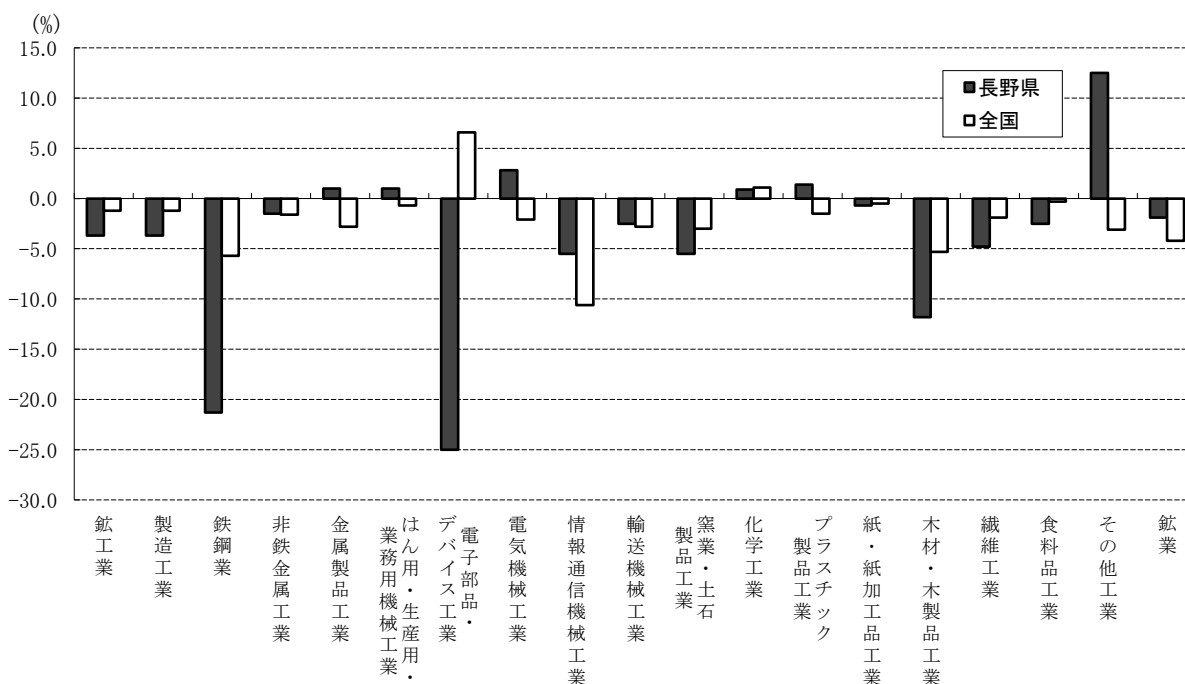
※「主な業種・品目」については、寄与度(全体に与える影響)の大きいものを掲載してあります。

※「主な品目」については、対象事業所数が少数の場合は掲載していません。

※前年比で横ばいの業種は業種数に含まれません。

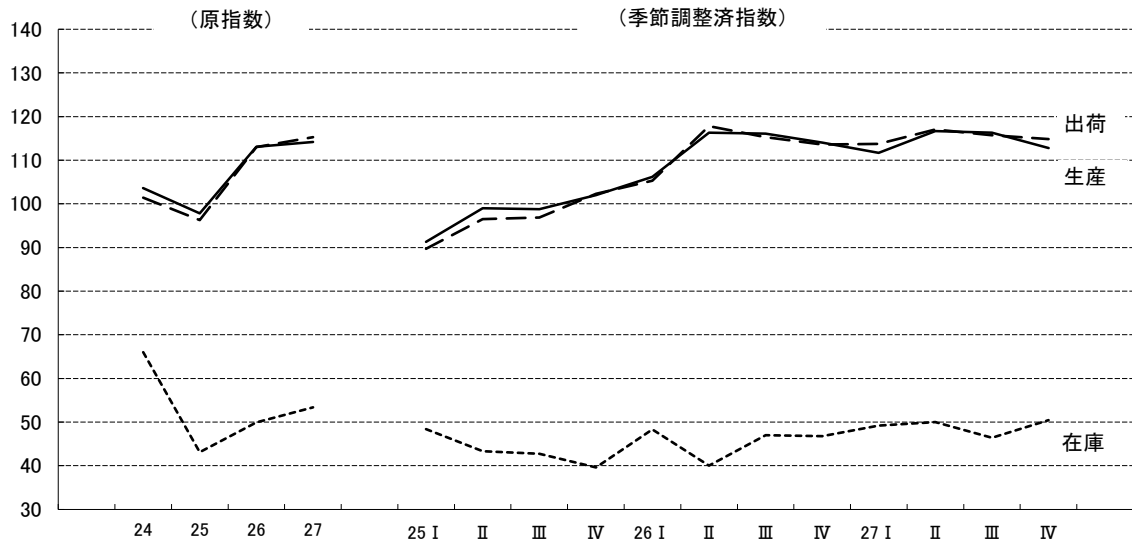
※在庫は、前年末比を用いています。また、「輸送機械工業」は在庫系列を採用していないため業種数に含まれません。

長野県・全国の業種別生産指数(原指数)の前年比



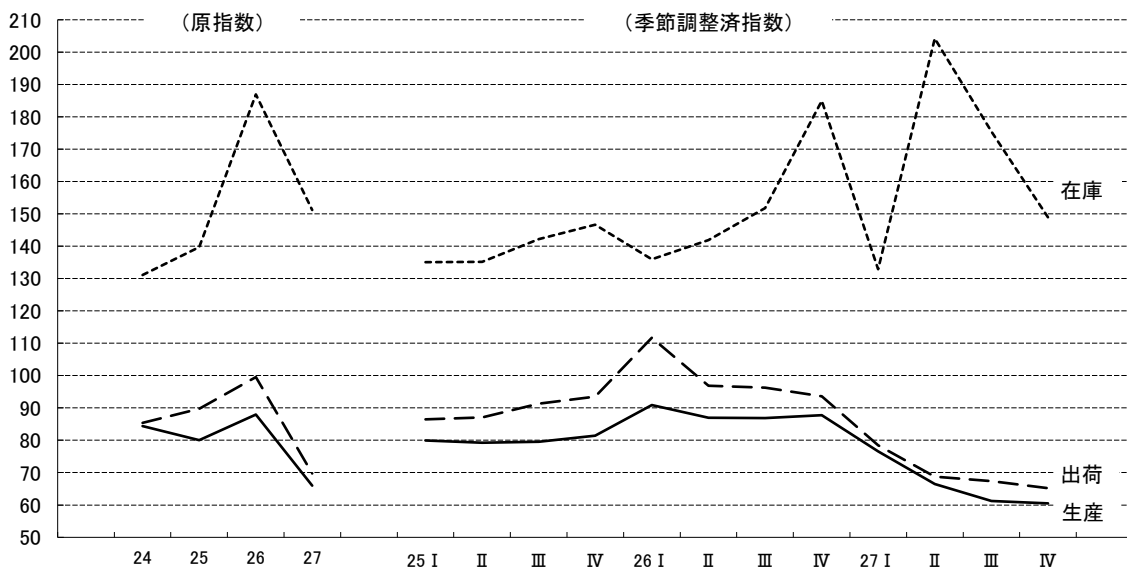
**はん用・生産用・
業務用機械工業**

平成27年の生産指数は114.2、前年比1.0%増となりました。これは、主に業務用機械工業が上昇したことによるものです。出荷指数は115.3、同2.0%増、在庫指数は年末値で53.4、前年末比7.0%増となりました。



**電子部品・
デバイス工業**

平成27年の生産指数は66.0、前年比△25.0%となりました。これは、主に電子部品が低下したことによるものです。出荷指数は69.8、同△29.8%、在庫指数は年末値で151.2、前年末比△19.1%となりました。



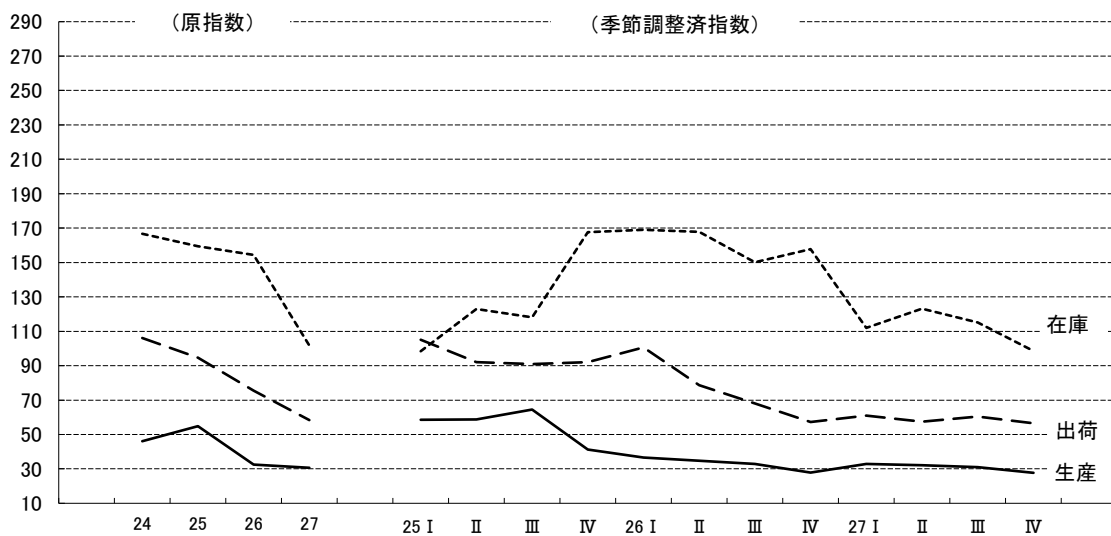
電気機械工業

平成27年の生産指数は165.6、前年比2.8%増となりました。これは、電気計測器、静止電気機械が上昇したことによるものです。出荷指数は165.3、同2.6%増、在庫指数は年末値で91.0、前年末比△5.2%となりました。



情報通信機械工業

平成27年の生産指数は30.7、前年比△5.5%となりました。これは、主に電子計算機及び関連装置が低下したことによるものです。出荷指数は58.3、同△22.8%、在庫指数は年末値で101.7、前年末比△34.1%となりました。



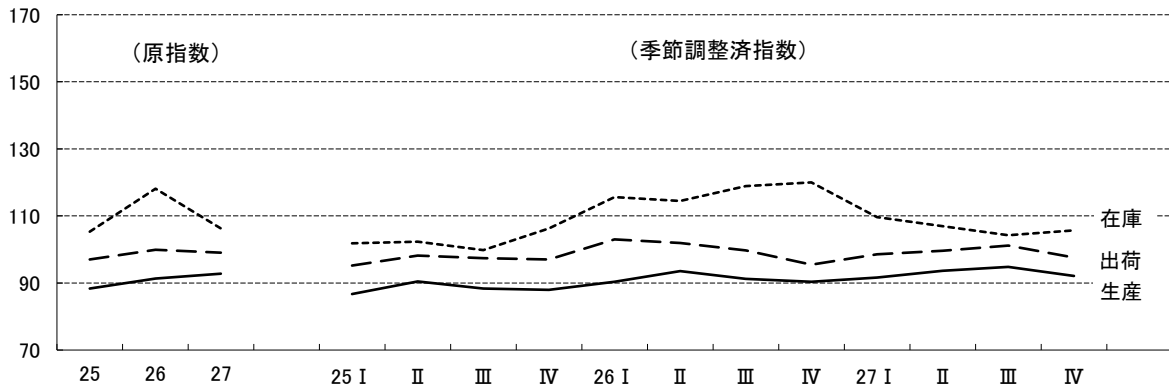
3 財別の動き

平成27年の生産指数(原指数)は、90.4、前年比 Δ 3.7%となり、財別にみると生産財の低下に大きく影響されました。最終需要財は92.8で前年比1.6%、生産財は87.8で同 Δ 9.3%となりました。

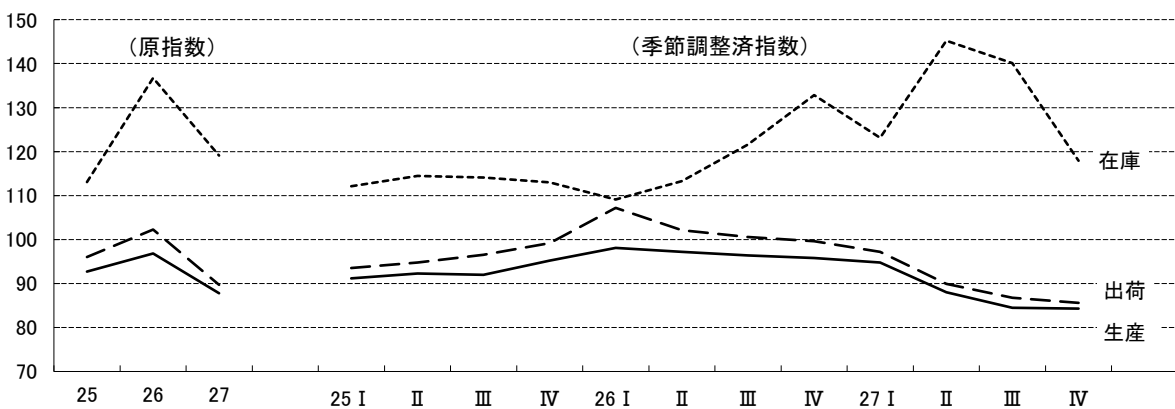
出荷指数(原指数)を財別にみると、最終需要財は99.0で前年比 Δ 0.9%となりました。これは主に耐久消費財が低下したことによるものです。生産財は89.7で同 Δ 12.3%となりました。

在庫指数(原指数)を財別にみると、最終需要財は年末値で106.3、前年末比 Δ 10.0%となりました。これは、耐久消費財、非耐久消費財が低下したことによるものです。生産財は年末値で119.1で同 Δ 12.9%となりました。

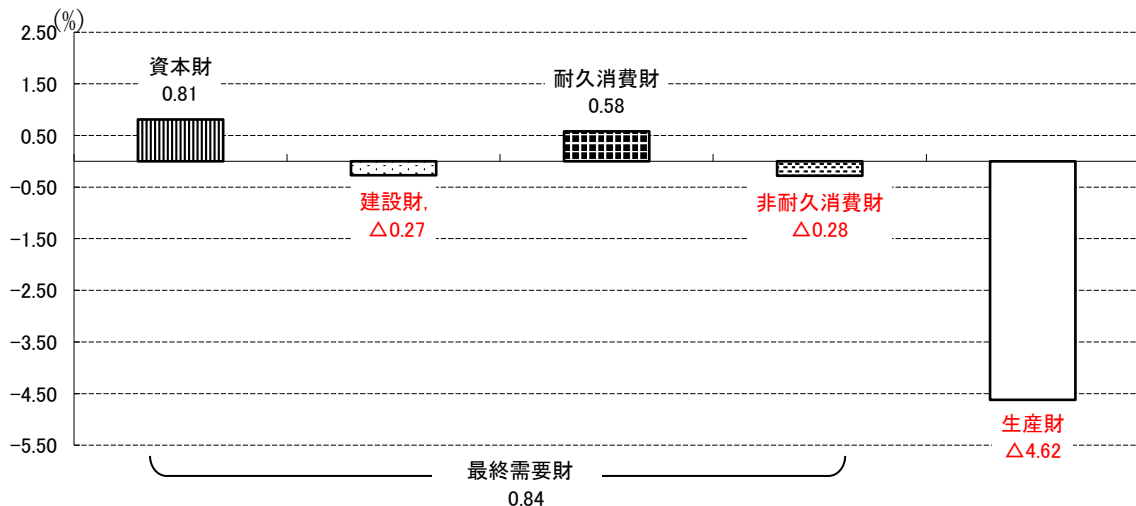
最終需要財の推移



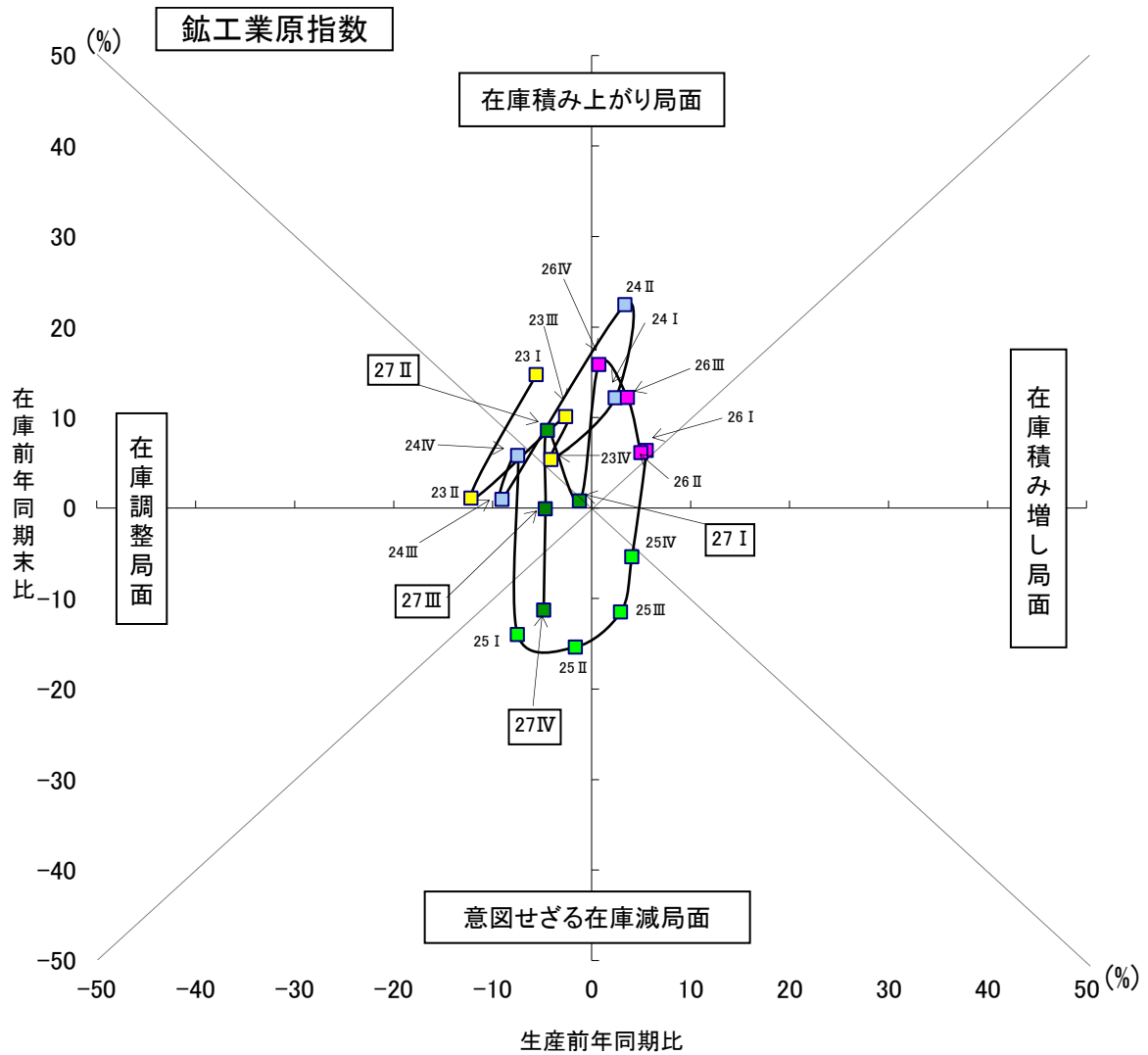
生産財の推移



生産指数(原指数)の財別寄与度(平成27年)



4 在庫循環の推移



***局面の見方**（生産と在庫について以下のような循環が見られることが多い）

- ・意図せざる在庫減局面（第一局面）・・・需要が予測を上回り、一時的に在庫が減少する。
- ・在庫積み増し局面（第二局面）・・・将来の需要増に備え増産し、在庫を積極的に積み増そうとする。
- ・在庫積み上がり局面（第三局面）・・・需要が予測を下回り、在庫が積み上がってしまう。
- ・在庫調整局面（第四局面）・・・減産を進め、積み上がった在庫を減らそうとする。

